

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第10回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。今回は「平谷地区」からのレポートです。

中国遊歩道「さんぽ道」～平谷から～

今回は、県道から串掛林道頂上まで続く、中国遊歩道の散策ポイントをご紹介します。さて、平谷地区の地図を片手に出発です！

熊野町から矢野峠へ向う県道添い右手の浄光寺説教所の道を手前から入ると、入り口には「浄光寺バス停」という丸太の標識。サーここから遊歩道の始まりだ！



丸太の標識

車1台通るほどの細い道をしばらく上り右折。時折、迷いそうになつたら出くわす丸太でできた味のある標識が遊歩道の雰囲気を感じてくれる。

標識に誘われるまま山を少し登ると、「的場神社（八幡社）」に着。先端部分が反り上がっている鳥居をくぐると、真新しい木の香りのする神殿がある。この地域の歴史文化に詳しい台沖忠さん（85才）を訪ね、お話を伺った。

この神社は平谷村の神様で、台風で倒壊したため昨年11月に落成したばかりだそうである。鳥居は珍しい「明神鳥居」という形式。平谷村は昭和6年に平谷区・川角区とともに熊野町に編入されたそ



的場神社（八幡社）

うだ。台沖さんは、収集された皆さんの資料を広げながらいろいろなお話を聞かせてくださる。フムフム、まるで生き字引さんである。「八幡さんはよく怒られるんじゃない。以前に私がほこり払いに掃除をしておたらガタガタと神社が揺れてのお。」と不思議な体験を語ってく

さった。こんなお話を伺っては、神社を拝見するのにもひととき興味シンシンである。揺れないかなあ。うーん、今度は私もお掃除をしてみなくては、などと思いつつ、神社を後にして坂道をドンドン登って行くと串掛林道に出る。道路脇の大きな木の案内板を読んでさらに登る登る。

遊歩道入り口から歩いて1時間くらいであるうか、遠くに串掛林道頂上が見えてくる。道路脇の見晴しの良い高台には、この4月から開所予定の「あゆみ生活実習所」が建設中である。

そして、いよいよ向うは「広島湾一望スポット」。手前にあった愛宕神社案内板に戻って愛宕神社方面へ200mほど歩くと、一気に目の前が明るくなる。わあ！！広島湾



熊野町から海が見える

だー！！夕日に映えたセピア色の光景に息をのむ。眼下には広島湾が一望できる。ここにも熊野町の「工」とここ発見！

最後はふもとに下りて、樹齢約200年の「しだれ桜」を拝見する。遊歩道入り口へ戻り、県道添いに矢野方面へもう100mほど行き右手に入ると、山の突き当たり正面に隣とした藁葺き屋根の佃家がある。庭先にあるしだれ桜の木は、毎年春になったらたくさんのお花を咲かせてくれるそう。



樹齢約200年のしだれ桜

里山歩きには、日常の車社会でなにげなく通り過ぎてしまう、大切な忘れ物に出会うことがありま

す。これから少しずつ暖かくなりますね。みなさんもふらりと中国遊歩道「さんぽ道」、いかがでしょうか。

取材 伊藤真由美